

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 5月22日更新

事務事業名		外国語指導助手配置事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連					
総合計画体系	政策	3	教育の健康				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	右田 純司	
	施策	9	義務教育の充実				所属課	学校教育課	担当者名	橋村 綾子	
	施策の柱	31	学力の向上				所属班	総務施設班	(内線)	2213	
予算科目		会計一般	款10	項1	目1	事業連番11595	根拠法令				成果優先度評価結果 : ② コスト削減優先度評価結果 : ⑪
終了、開始年度		☐ 28年度で終了 ☐ 28年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 25 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)				

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	3名の外国人英語指導助手を市内3中学校に配置し、生徒の英語力の向上及び国際感覚を育む。また、市内7小学校へも月1回程度派遣し、児童の英語への興味を抱かせることにも活用する。
【業務の流れ】	①毎年4月に随意契約により業務委託契約を締結→②受託者から派遣された英語指導助手により英語指導→③毎月、指導方針等のミーティング→④出勤簿の提出→⑤毎月の委託料の支払い ※業者選定については、3年ごとを目処に総合評価方式により決定する。
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動) (DO) 外国語指導助手 (ALT) 3名を市内3中学校に派遣し、英語授業の助手として活用した。加えて、市小学校へも月1回程度派遣し、英語指導に活用した。		29年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 外国語指導助手 (ALT) 3名を市内3中学校に派遣し、英語授業の助手として活用する。加えて、市小学校へも月1回程度派遣し、英語指導に活用する。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア: 中学校での指導時間	時間	イングリッシュキャンプ委託料の減
イ: 小学校での指導時間	時間	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
市内中学校に通う中学生及び小学生	人	→ ア: 市内中学校に通う中学生数
	人	→ イ: 市内小学校に通う小学生数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
外国のことや英語への興味を持ってもらい英語力の向上につなげる。	%	→ ア: 抽出した生徒のうち英語が好きになったと答えた者の割合
	%	→ イ: 抽出した児童のうち英語が好きになったと答えた者の割合
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
英語への興味を持ってもらう事が、英語力の向上になり、結果学力が身につくことになるため		全体計画
		～ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移												
			単位	26年度 実績(決算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	31年度 見込	32年度 見込	
①	活動指標	ア	時間	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	
		イ	時間	250	250	250	250	250	250	250	250	
②	対象指標	ア	人	1,837	1,878	1,744	1,912	1,744	1,744	1,800	1,800	
		イ	人	4,219	4,314	4,105	4,453	4,105	4,105	4,200	4,200	
③	成果指標	ア	%	73	75	85	44	85	85	85	85	
		イ	%	85	85	75	57	75	75	75	75	
投資 入費 量	事業 費	財 源 内 訳	国庫支出金	千円								
			都道府県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円								
			繰入金	千円								
			一般財源	千円	13,143	13,137	15,226	14,671	12,636	13,000	13,000	13,000
		(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	13,143	13,137	15,226	14,671	12,636	13,000	13,000	13,000
			(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
			(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正 規 職 員 従 事 人 数	正規職員従事人数	人	2	1	1	3	1	1	1	1
			延べ業務時間	時間	28	90	8	210	8	8	8	100
			(B) 人件費計	千円	111	334	31	0	31	31	31	398
	トータルコスト(A)+(B)			千円	13,254	13,471	15,257	14,671	12,667	13,031	13,031	13,398

事務事業名	外国語指導助手配置事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	学校教育課
-------	-------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②29年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 成果指標については、外国のことや英語へ興味を持つことが、英語力の向上に繋がるため目標を達成させたい。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 今後更に委託業者（3名のALT）と小・中学校教諭との連携により、成果指標値を生徒で85%、児童についても75%以上に上げたい。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似の事務事業がない
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費としては市内3中学校にALTを各1人ずつ配置することと、空いた時間には7小学校への英語指導もしているので、成果を落とさずに事業費を削減することは難しい。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 業務については委託しており、担当職員についても最小人員で対応していることから、これ以上の削減は難しい。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 市内全校を対象に実施しているので、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 義務教育課程である中学校の授業なので、市が関与することは妥当である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

事務事業としては現在の内容で単年度繰返し継続していくものとするが、更に英語に興味を持たせる新たな取り組みとして、スピーチコンテスト開催を計画している。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							